

今週の為替相場見通し(2020年9月7日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		105.29 ~ 106.55	106.25	105.50 ~ 107.00
ユーロ	(ドル)		1.1781 ~ 1.2014	1.1838	1.1500 ~ 1.2500
(1ユーロ=)	(円)		125.30 ~ 127.06	125.77	124.50 ~ 127.00
英ポンド	(ドル)		1.3176 ~ 1.3481	1.3280	1.3050 ~ 1.3350
(1英ポンド=)	(円)	*	140.12 ~ 142.72	141.09	139.00 ~ 142.00
豪ドル	(ドル)		0.7222 ~ 0.7413	0.7281	0.7200 ~ 0.7400
(1豪ドル=)	(円)	*	76.77 ~ 78.46	77.36	76.70 ~ 78.40

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

市場営業部 為替営業第二チーム 尾身 友花

(1)今週の予想レンジ: 105.50 ~ 107.00 円

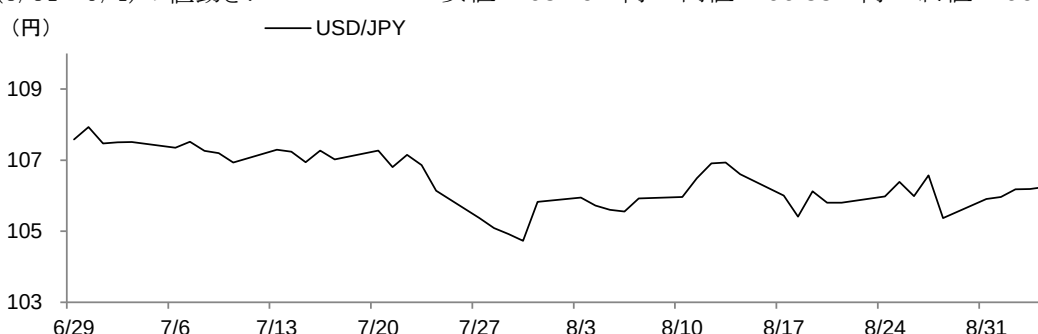
(2)ポイント【先週までの回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は緩やかに上昇する展開。週初31日、105 円台半ばでオープンしたドル/円は、月末における実需の円買いに一時週安値となる105.29 円まで下落。その後、円買いは一服し、ドル/円は106 円台にのせるも、米長期金利の低下を背景に上値の重い展開となった。1 日には、ドル/円は105 円台後半まで値を下げたが、安倍首相退任後のアベノミクス継続期待や米8 月ISM 製造業景気指数の良好な結果を好感すると、ドル/円は106 円台前半まで上昇した。2 日にかけてもドルが買われる展開。後半にかけて、米8月ADP 雇用統計の悪化を背景に106 円台前半まで反落するも、ユーロ売りが継続したことを受けて106円台で揉み合い推移となった。3 日には、前日に続いてユーロ売り・ドル買いの動きが強まると、ドル/円は一時週高値となる106.55 円まで上昇したが、米長期金利の低下に106 円台前半まで反落した。4日は、米8月雇用統計が良好な結果となり一時106円台半ばまで急伸する場面が見られたが、その後は米株の大幅下落に上値を押さえられ106円台前半にてクローズした。

今週のドル/円相場はドル買いの流れが継続すると予想する。先週はユーロ/ドルの上昇が一服したことでドル売りに歯止めがかかり、ドルは緩やかな上昇を見せた。週末に発表された雇用統計の結果も良好だった為、株式市場の混乱も落ち着くと考えており、基本的にはこの流れが継続するだろう。但し、先週もそうだったように、低金利政策の長期化が示されたことで米長期金利が低下する局面ではドル売りが見られており、ドルの買い戻しは緩やかなものに留まると見ている。今週は欧州のECB 政策理事会が予定されており、追加の緩和策が示されればユーロの上値が更に重くなるだろう。また、今週は米国内における議会が再開し、追加経済対策の協議が行われると言われており、進展が見られればドル買いが一段と進展するだろう。

(3)先週までの相場の推移

先週(8/31~9/4)の値動き: 安値 105.29 円 高値 106.55 円 終値 106.25 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

市場営業部 為替営業第一チーム 逸見 久貴

(1) 今週の予想レンジ: 1.1500 ~ 1.2500 124.50 ~ 127.00 円

(2) ポイント【先週までの回顧と今週の見通し】

先週の8月31日のユーロ/ドルは、1.1920付近でオープン。ロンドン市場が休場となる中、1.1900を挟んだ狭いレンジで推移。NY時間に入ると月末絡みのドル売りにサポートされ、約2年3か月ぶりの高値を更新。今月18日につけた高値と同じ水準である1.1966まで上昇し、一巡後は若干押し戻された。翌9月1日は、昨日の流れを引き継いだドル売りによってユーロ/ドルは1.20手前まで堅調に推移。特段材料がなかったが、2018年5月以来となる1.20台に乗せ、1.2014まで上昇。この水準では利益確定の売りが入り1.1910付近まで下落した。週央2日は、ECBのレーン専務理事が「ECBは為替レートを目標にしていないがユーロドルのレートは重要」と話したことや1.20台をキープできなかったことが材料視され、ユーロ売り地合いが継続すると、1.19台を割り込む展開。米8月ADP雇用統計結果を受け反発する場面もあったが、ユーロ買いは続かず、1.18半ばまで下落。3日は、英紙の「ECBはユーロ上昇が続けば輸出を圧迫し、物価を押し上げ追加の金融緩和圧力が増大する」との記事を受けユーロ売りが強まると、1.1789まで下落。NY時間には入ると、米金利低下、米株安によりドル売り優勢となると、1.18台半ばまで反発。週末4日は、雇用統計を控え様子見ムードから動意薄。NY時間に入り、雇用統計が発表されると、ドル買いの展開となり、1.1781まで下落。一巡後は、若干値を戻し1.18401付近で越週した。

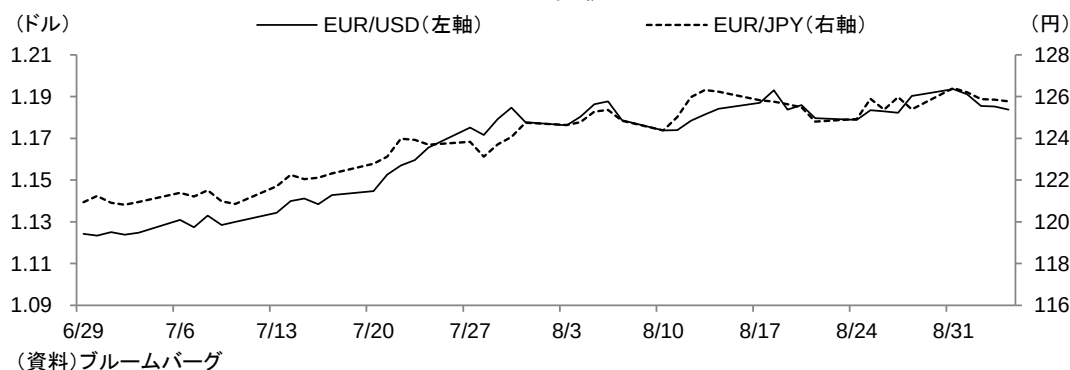
今週のユーロは確りとした推移を想定している。先週までのユーロは、欧州圏のコロナショックからの回復期待によるユーロ買い、そして米金利が低位安定するとの見方が広がったことによるドル安が、ユーロ相場を急速に押し上げる展開となった。節目の1.2付近では跳ね返されたものの、ドルの供給過剰感やゼロ金利が継続する環境下、引き続きドル売り地合いが継続すると考えている。ユーロについても、EU復興基金の設立やECBによるパンデミック緊急購入プログラムなど、金融・財政の両輪が揃った欧州圏は、これから大統領選挙を迎える米や安倍首相が辞任したばかりの日本と比べれば、相対的には安心感があり、ユーロが買われやすい状況だと考えている。

(3) 先週までの相場の推移

先週(8/31~9/4)の値動き:

(対ドル) 安値 1.1781 高値 1.2014 終値 1.1838

(対円) 安値 125.30 高値 127.06 終値 125.77



3. 英ポンド

欧州資金部 本多 秀俊

(1) 今週の予想レンジ: 1.3050 ~ 1.3350 139.00 ~ 142.00 円

(2) ポイント【先週までの回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、続騰の先行から、頭打ち。対ドルでは年初来高値を1.3481まで更新し(1日)、頭打ち後も高値圏と言える水準にとどまった。先行したポンド堅調は、英固有の要因によるよりも、ドル全面安の結果と考えられた。ジャクソンホールにおける演説(27日)で、米連銀パウエル総裁が物価上振れを容認し(アベレージ・ターゲティング)、緩和的な金融政策を長期に亘って維持する方針を明確にしたことがドルの一段安を促した。もっとも、並行してポンドは、対円、対ユーロなどでも明確に水準を切り上げており、値動きだけを見れば、なんらかのポンド買い要因の存在も疑われたが、その要因は特定できなかった。その後、対ドル、対円で、ポンドは天井を打って下落に転じたが、これもユーロ側の要因を色濃く反映した値動き。欧州中銀レーン理事が、1日、「為替に目標水準はないが、重要な問題だ」と足下進行中のユーロ高を牽制する発言をしたのが、ユーロ安主導のドル全面反発を誘った。翌2日には、英中銀ラムズデン副総裁が「必要があれば、資産購入(量的緩和)の規模を大胆に引き上げることもできる」と述べたが、ポンドの反応は緩慢で、対ユーロでポンドが天井を打って反落したのは3日以降のことだった。4日には、英中銀金融政策委員会のソーネダース委員が、「追加の金融緩和が適切になる公算が極めて高い」と述べ、もう一段のポンド下押しを誘ったが、下落は一時的、かつ小幅で、週引けに掛けては若干の反発を見せて取引を終えた。

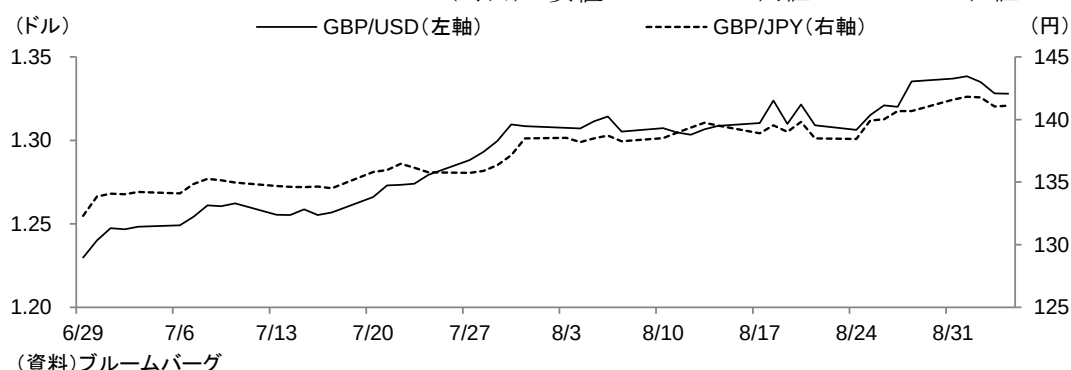
今週の英ポンド相場は、先週後半に見せた軟調推移の継続を予想。7月末に対ドルで1.30を上抜けてからの一貫したポンド堅調や、先週前半進んだポンドの急伸には意外感が強かった。ポンドを買い上げるような明確な材料が、特にあったとは思えなかったからだ。勿論、上述したようなドル側の要因、更にはユーロ側の要因がポンドを押し上げた側面もあっただろうが、それ以上に大きかったのは、ポンドを売り持ちに傾けていた向きの、調整的な買戻しだったのではないかと。英は、先進国の中でも最もコロナ禍の被害が大きく、従って経済の落ち込みも激しかった国のひとつだし、EU離脱後の将来関係交渉に進展が見られないという、固有の悪材料もあった。ポンドを買えない理由、売りたい理由が、あまりにもわかり易かったが故に、ポンド売り持ちが積み上がっていた可能性は十分に考えられる。一方で、7月以降、やはりほぼ一方的に進んできたドル安だが、ここにきて下げ渋りの兆候を見せ始めたようにも見える。4日に発表された米8月雇用統計も、ドルの反発を妨げない内容と言えただろう。対照的に、未だ漠とした要因ながら、ジョンソン首相の指導力低下という懸念材料も英には浮上している。ポンドの売り持ち解消が一巡したところで、引き続き、ポンドは、売りたい通貨のひとつではなかろうか。英経済指標では、今週、11日(金)に、英7月(月次)GDP、7月製造業/鉱工業生産、7月貿易収支の発表が集中する。単発の経済指標が相場つきを大きく変えるような展開は考え難いが、7月4日以降、パブ、レストランの営業再開など、ロックダウンが本格的に解除された影響がどのように表れるのか/表れないのか、一定の注目は必要であろう。

(3) 先週までの相場の推移

先週(8/31~9/4)の値動き:

(対ドル) 安値 1.3176 高値 1.3481 終値 1.3280

(対円) 安値 140.12 高値 142.72 終値 141.09



4. 豪ドル

アジア・オセアニア資金部 シドニー室 川口 志保

(1) 今週の予想レンジ: 0.7200 ~ 0.7400 76.70 ~ 78.40 円

(2) ポイント【先週までの回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場は、31日(月)は月末フローが散見される中、緩やかに0.73台半ばから0.74台乗せの展開となった。月末のフローが飛び交う中、これまで継続していたUSD売りが一旦落ち着き、ロンドンも休場であったため比較的静かな月末となった。1日(火)は再び0.73台半ばから0.74台乗せのレンジ。米FRBの金融緩和長期化の展望を背景としたドル売りや中国の良好な8月財新製造業PMIに下値を支えられた。2日(水)はやや下落したものの0.73台を維持した。発表された豪2Q GDP(前期比)は▲7%で予想の▲6%を下回る結果となり、0.7340近辺まで下落。NY朝は軟調な米8月ADP雇用統計で一旦はUSD売りとなったものの、米株が堅調に推移するとUSD買いとなり、豪ドルは0.7301まで下落。その後ドル買いフローが一巡するとリスクオンの流れから0.7330近辺へと戻した。RBA政策決定会合では政策金利を0.25%据え置き、認可金融機関を対象とするTerm Funding Facility(定期低金利資金調達)をA\$200bioに拡大し、来年6月まで延長するとした。借り入れコストの引き下げで市中への融資促進を図る狙い。またRBAロウ総裁は「VIC州での復興状況は不均衡となる」との見通しを示したものの「国内経済は以前の予想よりも悪化していない」との見方を示した。現在の豪ドル高についてはドル安が進行し、商品価格が上昇している為、値上がりしているとのみコメント。先月は失業率を低下させ、インフレを上昇させるために豪ドル安が好ましいとしていた。3日(木)は0.73台中心の推移となった。豪7月の貿易収支は予想を下回り46.1億豪ドルの黒字。豪ドルはやや下落するも一旦0.7340で支えられた。しかし翌金曜に米8月雇用統計を控え直近足下のドル安の調整が入り、ドルが上昇。海外時間を通して豪ドルは重く推移した。また米株が大幅安となった事もリスクオフの流れを誘い0.7265まで押し下げた。4日(金)は米8月雇用統計まで様子見となり0.72台後半で推移。米8月雇用統計が総じて良好でドル買いとなり、豪ドルは0.7222まで下落。但し米労働市場の僅かな回復基調で早急な政策変更は考えにくく、米低金利長期化期待が強い為、いずれドル安基調に戻すとの思惑が広がり、ドル買いが一巡すると米株と共に豪ドルも再度上昇し、0.73近辺まで戻した。

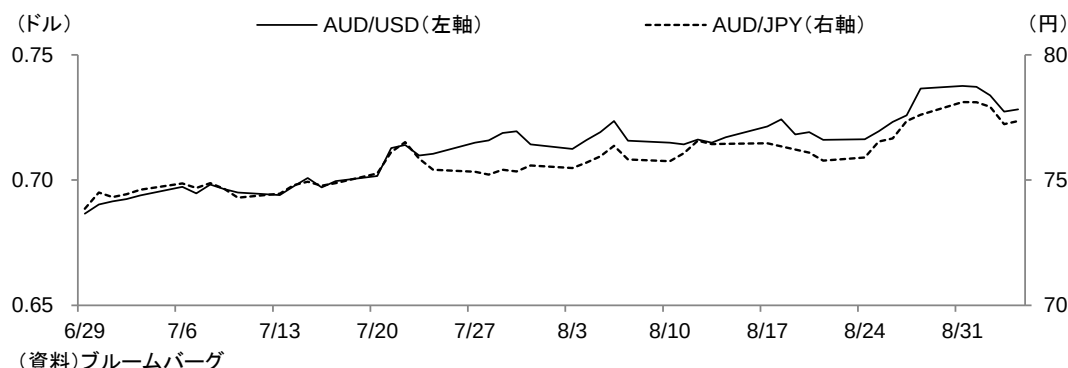
今週は0.72-0.73台中心での推移を予想する。主だった豪州経済指標発表は予定されていない。豪ドル好感材料としては先週4日豪連邦政府によりクリスマスまでにWA州を除く全州境解放をするという目標が設定されたことや、政府会議で現在1週間あたり4000人となっている豪州入国者数制限を14日毎に引き上げる見直しをする事が合意された事等があり、他通貨と比べ相対的に好感されるとみる。また豪金融政策に関して、金利先物市場では次回のRBAで15bpsの利下げを織り込んでいたがこの先為替介入やマイナス金利導入の可能性は極めて低い。またその程度の利下げでは効果に疑問も残るため、追加緩和があるとすれば利下げではなく国債購入拡張が濃厚な路線とみる。但し足下の市場の焦点は米FRBの低金利長期化となっており、米労働市場で若干回復基調が示されたところでFRBの金融政策に変更はないとの市場の思惑が強く、ドル安が今後も続くともみる。どちらかというとその様な思惑を背景とした豪ドル買いが再継続するとみる。

(3) 先週までの相場の推移

先週(8/31~9/4)の値動き:

(対ドル) 安値 0.7222 高値 0.7413 終値 0.7281

(対円) 安値 76.77 高値 78.46 終値 77.36



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償のみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。